

平成 23 年度

島根大学大学院医学系研究科
医科学専攻（修士課程）

学生募集要項

入学案内

（推薦入試）

島根大学大学院医学系研究科

目 次

推薦入試学生募集要項

	ページ
1 募 集 人 員	1
2 出 願 資 格	1
3 出 願 手 続	2
4 入 学 者 選 抜 方 法	4
5 合 格 者 発 表	4
6 入 学 手 続	4

入 学 案 内

1 目 的	5
2 修 業 年 限	5
3 大学院設置基準第14条による教育方法の特例	5
4 授業科目の講義等の内容及び担当教員	5
5 授業科目，単位数及び履修方法	11
6 履 修 モ デ ル	14
7 修 了 の 要 件	16
8 学 位 授 与	16
9 長 期 履 修 制 度	16
10 入学料・授業料の免除及び徴収猶予制度	17
11 奨 学 金 制 度	17
12 学生教育研究災害傷害保険	17
13 個 人 情 報 の 取 扱 い	17

推薦入試学生募集要項

1 募集人員

医科学専攻修士課程 若干人

2 出願資格

次の各号のいずれかに該当し、医療・保健・福祉など医科学の分野に問題意識と強い学習意欲を有し、かつ学業成績及び人物ともに優れている者で、出身大学等又は勤務先の長等が責任をもって推薦できる者

(平成23年3月末日までに該当する見込みの者を含む。)

大学を卒業した者

学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者

外国において、学校教育における16年の課程を修了した者

外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者

我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

文部科学大臣の指定した者（昭和28年2月7日文部省告示第5号）

学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本学において認定試験を行い、本学大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者

本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者

【本研究科において、個別の入学資格審査によって、
大学を卒業した者と同等以上の学力があると認める者】

短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校などの教育課程を修了した上で、次のいずれかに該当する者

- 1) 医療・福祉・健康関係の教育・研究施設で教育・研究に携わっている者
- 2) 放送大学などでさらに2年以上の教育を受けた者
- 3) 看護師、保健師、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士、理学療法士、作業療法士、視能訓練士、言語聴覚士、介護福祉士等の資格を有し、3年以上の実務経験のある者
- 4) 学会発表、学術雑誌への掲載の経験（主著者あるいは共著者）のある者
- 5) 英語のレベルが、実用英語検定、TOEFL、TOEICなどで一定以上の実力のある者
- 6) その他、上記の例に相当すると考えられる経歴あるいは実力のある者

(注意)

- ・上記 によって出願しようとする者は、事前に出願資格審査の説明を行いますので、平成22年5月10日(月)までに医学部学務課（出雲キャンパス）に相談してください。
- ・外国の大学を卒業した者は、事前確認を行いますので、平成22年5月10日(月)までに医学部学務課（出雲キャンパス）に相談してください。

医科学専攻には「総合医科学コース」、「がん専門薬剤師養成コース」及び「地域医療支援コーディネータ養成コース」があります。

「がん専門薬剤師養成コース」に入学を希望する者は、薬剤師の資格を有していること（又は平成22年の薬剤師国家試験に合格すること）が条件となります。

「地域医療支援コーディネータ養成コース」に入学を希望する者には、地域の医療福祉を担当する行政職員等を含みます。

3 出願手続

(1) 出願受付期間

平成22年5月24日(月)から5月28日(金)まで。

窓口受付は9時から17時まで。

なお、郵送による場合は5月26日(水)の消印のものまで受け付けます。

(2) 出願方法

出願書類は一括して提出してください。郵送の場合は、必ず本学所定の封筒を用い、書留郵便によって提出してください。

なお、出願に際しては、あらかじめ研究指導を希望する担当教員に照会の上、出願してください。

担当教員に関することについては、医学部学務課（(3)の照会先）へ問い合わせてください。

(3) 出願書類等提出及び照会先

〒693 - 8501 出雲市塩冶町89 - 1

島根大学医学部学務課入試・大学院室

電話番号 0853 - 20 - 2083

(4) 出願書類等

提出書類	摘要
入学志願票	本要項添付の用紙に記入してください。
受験票・写真票	本要項添付の用紙にそれぞれ氏名を記入の上、写真（上半身、無帽、正面向きとし、出願前3か月以内に撮影したもの）を所定欄に貼付してください。
成績証明書	大学等の成績証明書で、出身大学（学部）等の長が作成し厳封したものとします。大学院修士課程修了者は、大学の成績証明書の他に大学院の成績証明書（当該研究科の長が作成し厳封したもの）を提出してください。
卒業証明書等	大学等の卒業（見込）証明書で、出身大学（学部）長が作成したものとします。大学院修士課程修了者は、大学の卒業証明書の他に大学院の修了証明書を提出してください。
出身大学等・勤務先の長等の推薦書	本要項添付の用紙を使用し、出身大学等又は勤務先の長等が作成し、厳封したものとします。
自己推薦書（論文）	志望の動機 大学あるいは大学院等で学んだ専門知識の概略（社会人にあっては職業歴に基づいた専門知識の概略） 本要項添付の用紙を使用し、を区分別に記載（全体で1,600字程度）し、提出してください。ワープロも可とします。

入学検定料 振込金証明書	<p>平成23年度島根大学「入学検定料」振込依頼書等用紙の所定欄に必要事項を記入し、銀行・信用金庫・農協等の金融機関（ゆうちょ銀行・郵便局を利用される場合は、「通帳及び印鑑」が必要です。現金による振込はできません。）で、取扱期間中（平成22年5月17日(月)～平成22年5月28日(金)の窓口取扱時間内（15時00分まで）に同用紙にて、入学検定料30,000円を振り込んでください。（ATM（現金自動預払機）は使用しないでください。）振込手続後、窓口で返却された「票 振込金証明書（島根大学提出用）」を同封してください。</p> <p>なお、以下の場合以外は、納入された入学検定料は、いかなる理由があっても返還することができません。</p> <p>出願書類等を提出したが受理されなかった場合 該当者に連絡しますので、所定の期日までに手続を行ってください。</p> <p>入学検定料を振り込んだが、島根大学に出願しなかった場合 入学検定料を誤って二重に振り込んだ場合</p> <p>上記 及び については、本人の申出によって納入された入学検定料を返還することができますので、必ず6月11日(金)までに財務部経理・調達課出納担当（電話0852-32-6029）へ連絡してください。</p> <p>なお、返還の手続を行う際に「票 振込金受取書（志願者保管）」及び「票 振込金証明書（島根大学提出用）」が必要となりますので、大切に保管しておいてください。これらの書類がないと振込事実の確認ができず、返還ができないことがあります。</p>
返信用封筒 (受験票送付用)	<p>本要項添付の返信用封筒に郵便番号、住所、氏名を明記し、650円分の切手を貼付してください。</p>
あて名票 (合格通知書送付用)	<p>本学からの通知が確実に届く郵便番号、住所、氏名を記入してください。</p>
薬剤師免許証の写し (がん専門薬剤師養成コース志願者)	<p>薬剤師免許証の写しをA4サイズに縮小して提出してください。 (薬剤師免許取得見込みの者を除く。)</p>
在職期間証明書	<p>任意の様式で、在職時の職名、在職期間を証明できる書類を提出してください。</p>
受験許可書	<p>現在在職中の者は、所属長の受験許可書（様式自由）を必ず提出してください。</p>
外国人登録済証明書	<p>外国人の志願者は、市区町村長が発行した「外国人登録済証明書」（在留資格を記載したもの）を提出してください。</p>

(注意)

いったん受理した出願書類等は、いかなる理由があっても返還しません。

出願書類に不備がある場合は、受理できません。

その他不明な点があれば前記(3)の「出願書類等提出及び照会先」へ問い合わせてください。

(5) 障がい等を有する志願者との事前相談について

本学大学院に入学を志願する者で、障がい等（視覚障がい、聴覚障がい、肢体不自由、病弱等）があり、受験上及び修学上特別な配慮を必要とする場合は、出願受付開始までに前記(3)の「出願書類等提出及び照会先」に相談してください。

4 入学者選抜方法

入学者の選抜は、書類審査及び面接（口頭試問を含む。）の結果を総合的に判断し判定します。

(1) 書類審査

書類審査は、成績証明書及び自己推薦書（論文）を基に判定します。

(2) 面接（口頭試問を含む。）の実施日程

期 日	平成22年6月21日(月)～平成22年6月25日(金)の間で指定した1日
試験科目等	面接（口頭試問を含む。） 研究指導を希望する分野及び基礎知識等について行います。
試験場	島根大学医学部（出雲キャンパス）

試験日時は、受験票送付の際にお知らせします。

5 合格者発表

合格者は、平成22年7月9日(金) 11時に島根大学医学部（出雲キャンパス）構内（講義棟玄関前）に受験番号で掲示するとともに、本人には、合格通知書を送付します。

なお、電話等による可否の照会には応じません。また、本学ホームページに合格者の受験番号を速報として掲載しますが、正規には通知書にて確認してください。

ホームページアドレス <http://www.nyushi.shimane-u.ac.jp/>

6 入学手続

合格者は、入学手続期間内に入学手続書類等を持参の上、入学手続を行ってください。詳細については、合格通知書送付の際に連絡します。

(1) 入学手続期間

平成23年3月15日(火)・16日(水) 9時から17時まで

(2) 入学手続場所

島根大学医学部学務課入試・大学院室（出雲キャンパス）

(3) 入学料及び授業料

入学料 282,000円（平成22年度実績額）

【注意事項】

入学手続時までに改定が行われた場合は、新入学料が適用されます。

授業料

授業料は、入学後にお支払いただくことになります。

(1) 授業料の額（前期分）267,900円（後期分）267,900円【年額】535,800円

(2) 授業料のお支払方法

授業料のお支払は、預金口座からの「口座振替」を原則としています。

【注意事項】

入学時及び在学中に授業料の改定が行われた場合には、新授業料が適用されます。

入 学 案 内

1 目 的

医科学専攻修士課程は、医学部医学科以外出身の者に、総合的・学際的サイエンスとしての医科学の視点を付与し、本学及び地域における独自の研究・教育の実績を、教育・訓練を通じて学生に還元することによって、老年・若年人口対策、医食同源等の分野に関わる研究・教育、社会事業・企業活動などに、医科学の基礎と専門知識を持って携わることのできる人材の育成を目的とします。

なお、平成20年度から薬剤師免許を有する者（薬剤師免許取得見込みの者を含む。）が履修可能な「がん専門薬剤師養成コース」を設け、課程修了後、将来、所定のがん薬物療法認定薬剤師及びがん専門薬剤師の認定申請資格が取得可能な人材を養成しています。

また、平成21年度から「地域医療支援コーディネータ養成コース」を設け、県及び各市町村において地域の医師定着支援と地域で働く医師・看護師等の支援を業務とする「地域医療支援コーディネータ」を養成しています。

2 修業年限

修業年限は、2年を標準としますが、職業を有している方などで研究時間が十分に取れず標準の修業年限では修了することが困難な場合には、修業年限を超えて長期にわたって計画的に教育課程を履修することができます。（16頁の9 長期履修制度を参照願います。）

3 大学院設置基準第14条による教育方法の特例

社会人学生の就学を容易にし、広く社会のニーズに応えるべく、大学院設置基準第14条の規定を活用した「昼夜開講制」を導入しています。

4 授業科目の講義等の内容及び担当教員

授業科目名	講 義 等 の 内 容	担当教員
生 命 科 学 概 論	医科学の基礎をなす生命科学の成り立ち、方法論、今後の展開の可能性などについて概説します。また、科学研究の方法、発表・論文作成における戦略についても教授します。	本 間 良 夫 廣 田 秋 彦 土 屋 美加子 竹 永 啓 三
人 体 形 態 学	人体の構造を細胞、組織、器官、個体の各レベルで階層的に理解できるように教授します。	安 井 幸 彦 大 谷 浩 一 北 垣 一 津 森 登志子
人 体 機 能 学	人体の生理的機能を分子、細胞レベルの生化学・分子生物学から、組織・器官・個体レベルの高次の統合機能まで系統的・階層的に理解できるように教授します。	廣 田 秋 彦 紫 藤 治 土 屋 美加子 伊 藤 眞 一
病 理 病 態 学	疾病を代表的なカテゴリーに分け、それぞれについて分子・細胞レベルから組織・器官・個体レベルまで階層的かつ統合的に理解できるように教授します。	並 河 徹 丸 山 理留 富 岡 治 原 田 明 守
社 会 医 学	人類の健康に関する環境要因や法制・法科学、並びに疾病予防の概要を教授します。	藤 田 委 由 竹 下 治 邦 塩 飽 邦 憲

医の倫理学	生と死に関わる倫理的問題，医療と医学研究における倫理の重要性，医療・福祉における安全性，保健医療従事者と利用者間における援助関係などについて学びます。	竹堀宮稲長	下口崎垣田	治康卓京	男淳二司子
臨床医学概論	人体を対象とする経験科学たる臨床医学の基本理念，方法論について教授するとともに，臨床研究を進めるに際しての科学的方法論の原理を理解します。	木田山織秋益内	下邊口田山田田	芳一清禎恭順伸	一明次二彦一恵
病態生理に基づいた薬物治療学	様々な病気のメカニズムを説き明かし，それぞれに適合した合理的な薬の使い方の原理を論じます。「アートとしての治療」から「サイエンスとしての治療学」へと発展させる考え方を学びます。実験室データのみに基づく観念論的薬理学ではなく，「臨床における事実立脚したサイエンス」としての治療学を理解させるための薬理学を論じます。	奥塩足	西田立	秀直経	樹孝一
腫瘍の発生・増殖とその制御	細胞の発生・分化・増殖に関する基礎科学から腫瘍細胞発生の分子機序，細胞周期の調節異常，細胞分化と増殖の人為的統御について概説します。	本浦田宮関鈴嘉	間野中崎根宮数	良恒康浄淳直	夫健夫二治司樹
抗悪性腫瘍薬の臨床薬物動態学	抗悪性腫瘍薬の臨床薬物動態（PK）と抗腫瘍活性・副作用（PD）の関係（PK/PD）について概説し，代表的ながん化学療法における投与設計・レジメン管理に必要な基本的知識を習得させます。	直磯	良部	浩司威	
地域医療学	地域医療学とは，高齢化・過疎化といった地域医療の現状を見据えて，大学病院をはじめとした拠点病院と一次，二次医療機関及び福祉関連施設が密に連絡しあって地域医療を展開し，その展開にどのようなアプローチが存在するかを多角的にとらえることを目的とした学問です。本講義では，地域医療学の現状をとらえつつ，従来からのアプローチから先端的な研究までを網羅し，それが今後どのように地域医療として展開していくかということを展望します。	藤熊田花	田倉邊田	委俊英	由一剛輔
医療社会学	人を最も主要な資源とする地域医療支援ネットワークを構築するために必要な医療経済・政策学，医療保健行政学，医療安全管理学，労働安全衛生学，環境管理学について教授します。各医療機関の管理とネットワークの構築に必要な各分野の活動に，マネジメント（人に働きかけて，協働的な営みを発展させることによって，効果・効率的な資源活用，環境適応の能力と創造性を高めて，地域医療支援を実現する）を基礎とした管理手法の修得を目指します。	塩藤熊小廣田嘉山上橋	飽田倉林瀬邊数崎園本	邦委俊裕昌直雅昌貴	憲由一太博剛樹之武彦
労働と生活の心理学	地域医療支援コーディネータを養成するに際し，地域医療に従事する方々のメンタル面にも配慮できる能力を育成することは不可欠であるため，本講義では，ストレスの基本概念や対処法，働く人のスポーツに対する意識や介護からみた主観的健康観，業務従事者のメンタルヘルスや職場復帰などの産業臨床心理，対人関係や交渉といった社会（集団）心理などについて教授します。	太中足	田谷立	久智	明恵昭

地域医療実習	<p>本学医学部附属病院において4週間、県内の基幹病院において1週間、へき地診療所において1週間、島根県医療対策課、市町村役場又は保健所において1週間、老人保健・福祉施設において1週間、計8週間の実習を行い、地域医療の現状、問題点及びその対策について学びます。</p>	熊倉俊一
地域医療実習	<p>地域医療実習 で学んだことを基に、更に県内の本学医学部附属病院以外の都市部の病院において1週間、へき地基幹病院において2週間、へき地診療所において2週間、島根県医療対策課、市町村役場又は保健所において2週間、老人保健・福祉施設において1週間、計8週間の実習を行い、地域医療の現状をより深く学ぶとともに、医療人への支援体制の必要性について学びます。更に、地域医療支援コーディネータとして働く際のノウハウについて修得を目指します。実習は、地域医療実習以外の施設で行います。</p>	熊倉俊一
医科学演習	<p>(1)各研究室で定例的な演習を行い、以下のような医科学研究の遂行に必要な基本技能の養成を目的とします。英語論文の批判的読解能力、実験仮説を組み立てる能力、口頭発表・討論の能力、論文作成能力を養成します。 (2)半期に1回、修士課程全体で発表・討論の演習を行います。修士課程の全学生と全教員が一堂に会して各自の研究目的、研究方法論、研究進捗状況、反省点や今後の課題などについて徹底的に議論し、修士論文作成に向けて実践的に教育します。 (3)がん専門薬剤師養成コースにおいては、1年次ががん専門薬剤師養成のための臨床研修（3ヶ月間）を履修し、臨床症例から設定した課題研究及びその報告を(1)及び(2)の一部に含めて実践するよう教育します。</p>	各学生の所属する研究室の担当教員
医科学特別研究	<p>各学生が所属する研究室で実験を軸とした演習を行います。実験技術に関する実技教育も含むので、実習でもあります。前記の医科学演習とも連携して、実験仮説の組み立て、仮説の実証に至る実験方略、データ収集法、仮説検証過程の自己検証、論文化の方略と技術を実践的に指導し、修士論文を作成します。</p>	各学生の所属する研究室の担当教員
地域医療学特別研究	<p>地域医療学について修士論文を作成します。又は修士論文に代えて地域医療実習 及び地域医療実習 において学んだこと等の特定の課題について研究の成果報告を作成します。</p>	熊倉俊一
老年医学	<p>生活習慣病等による老年期における神経系、内臓系、運動器系等の機能障害の病態生理と予防、治療、高齢者の健康福祉システム等について教授します。</p>	藤田委由 塩飽邦 山口修平
リハビリテーション医学	<p>各種機能障害に対するリハビリテーションの理論と実際を教授します。また、リハビリテーション関連の専門知識を義肢等装具の製作所現場訪問を含めて学習します。</p>	内尾祐司 馬庭壯吉
先天代謝異常学・臨床遺伝学	<p>先天代謝異常をはじめとする遺伝子異常の分類、病因、病態、早期診断、発症予防、治療とその研究法について概説します。特に質量分析を中心とした臨床診断法、代謝障害に基づく病態の解析法について詳しく学びます。</p>	並山益 河口清順 徹次一
胎児・生殖医学	<p>ヒトの個体発生の概要、特に組織が形成され生後につながる臓器機能が発達してくる胎児期後半における成長の発生過程と異常について、診断と治療の概略、催奇形物質など環境因子の作用を含めて理解します。更に、生殖医学の最新情報について解説します。</p>	大谷浩二 宮崎康 宇田川潤

発生工学・実験動物学	実験動物の意義，利用法と倫理，初期胚培養・胚移植などの基本的操作，トランスジェニック，本学で確立した子宮外発生法など遺伝要因と環境要因の働き，先天異常のメカニズムを解析するための発生工学的手法の実際と意義・利用法について解説します。	大谷 浩 並河 徹 宇田川 潤
再生医学・組織工学	胚性幹細胞，各種の組織幹細胞の意義と，これらを用いた再生医学，組織工学の実験的研究と臨床応用について最新情報を学びます。	内尾 祐司 本間 良夫 大平 明弘
医食同源の科学	まず食品・栄養と生体内代謝機構との関係を理解します。その上で，中医薬等による自己免疫疾患・老化関連疾患の治療，生活習慣病の予防に関する食品因子の作用，新規の食糧・栄養資源の探索と応用，健康・機能性食品の開発等について最先端の研究内容を教授します。	中村 守彦 塩飽 邦一 木下 芳太 小橋 裕道
医療情報学	医療情報を収集・解析・管理・応用する方法について学びます。特に，地域医療ネットワークシステム，無線LANによる病院・病床管理，データマイニングによる意思決定支援を中心に，e-Hospitalを構築する要素技術について教授します。	津花 周作 平野 輔 本 英二 田 章
精神神経科学	現代において増加しつつある多様な「心の問題」に対し，その解明を図るためにより科学的なアプローチを目指します。精神医学や神経心理学，健康医学理論の立場からの研究の概説を行い，具体的な問題にアプローチ出来るように指導します。	堀口 淳 稲垣 卓司
生活環境と健康の科学	健康に影響する生活環境要因に関して学びます。疫学研究，遺伝的要因の解析，予防医学について概説します。	塩飽 邦憲 紫藤 藤委 田 治由
環境生理学	様々な環境要因による内臓機能への影響と，自律神経及び内分泌等の調節によるホメオスタシス維持機構について学びます。特に体温調節と温度適応，循環調節について最新の知見を教授します。	紫藤 治人 吉田 正男 橋本 道俊 藤井 俊
免疫学 (生体防御システム学)	生体防御にあずかる機構を分子・細胞レベルから個体レベルの高次統合システムまで階層的に学びます。特に，自然免疫系と獲得免疫系との相互関連にも注目して新たな概念を理解します。	富岡 治明 原田 守 森野 栄 佐野 千晶
生体情報伝達学	多種多様な細胞が高次に統合されたシステムとしての人体，その高度なシステム調節の基盤である神経系等細胞間及び細胞内の情報伝達を分子，細胞・組織レベルで理解します。	松本 健一 安井 幸彦 廣田 秋彦 中村 守彦 児玉 達春 金崎 彦彦
* 医療のための 光工学の基礎	近年，光エレクトロニクス，コンピュータ，ナノテクノロジーなどの著しい進歩が，光を使った医療診断や治療技術に変革をもたらし，医療分野における様々な新しい応用が注目されている。光工学の生命科学の様々な分野への応用に使われている方法や技術について，その原理の基礎を学び，その理解を深める。	廣田 秋彦 吉大 正明 中宇 明 田川 守 宇田 彦 長井 潤 天野 篤 藤田 二 横野 久 松崎 幸貴

<p>* 機能性物質・食品 の応用の基礎</p>	<p>医療材料の開発とそれに伴う医療技術の進歩は、医療全般の向上に大きく貢献してきたし今後も貢献するものと期待されている。理工農学専門家の立場から、生体内において多彩な機能を発揮する物質の応用について基礎から説明する。</p>	<p>夫人守之男憲樹司之真稔泰 良正 秀道邦直誠守 間田内本飽数田藤田村家 本吉原川橋塩嘉福佐半奥清 Arup Neogi 柴板川 田村向藤 川佐 利</p>
<p>* 医生物学と数学・ 情報科学の接点</p>	<p>単一の受精卵から成体にいたる発生過程や、成体における構造と機能の関連、さらにそれら正常な状態からの逸脱としての先天異常、がん、生活習慣病などの疾病における複雑な生命現象の解析・理解に、数学・情報科学を応用することが試みられている。この科目では、具体的な事例を通して、医生物学から提起される多様なニーズと応用の可能性のある数学・情報科学の理論との接点について知り、基礎的な概念や知識を習得する。</p>	<p>大谷 浩彦平徹潤一直郎浩人太 廣山口 秋修 山田川 慶泰実敏正貫 宇田部 慶泰実敏正貫 小野江西 服杉中 杉中平 内藤</p>
<p>* 臨床・社会・ 環境医学と 高度情報学の接点</p>	<p>医学の進歩を情報学の進歩と照らし合わせて理解することを目指す。病理学、環境保健、臨床検査、医療情報を主な視点として、情報との係わりを学ぶ。更に、人間の置かれる地球環境にまで視野を拡げ、今後の情報社会を見通す。また、それぞれの取り組みを正しく理解するべく、情報技術についての基礎的な事項も併せて学ぶ。</p>	<p>塩飽 邦委 憲由徹作一人明也 藤田河本 周順正裕哲 並津益平石廣 田川賀富</p>
<p>* 理工医学のための 生物材料学の基礎</p>	<p>理工医学のための生物材料学の基礎では医学・医療の場で用いられる生物材料に関する基礎知識と一般的な研究方法などについて、講義・セミナー等で主に実際の研究事例を通して学ぶ。また、基礎・臨床医学応用に関する基礎知識についても、生化学、法医学、皮膚科学、眼科学、歯科口腔外科学、整形外科学領域についての特論をオムニバス形式で学ぶ。</p>	<p>内尾 祐 司健男伸弘治夫樹尚信也徹年理 浦野 治栄明浄南正毅定哲 眞 竹下田平根村戸井藤尾原杵淵 森大関古谷中加中上臼田</p>
<p>* 放射線の医療応用 と同位元素の 水環境への影響I</p>	<p>この授業では放射線医学と物理学の接点について、さらには水中の同位元素と環境との関わりについて講義を行う。放射線医学にはこれまでも物理学が重要な役割を果たしてきたが、放射線医学の更なる発展の為に、物理学との連携は欠かせない。また、環境問題を考える上で、水中の同位元素、という新たな視点が重要となりつつある。この授業では放射線医学、物理学、さらには環境学の素養を持った放射線医学研究者、物理研究者、地球環境研究者を育てることを目的とする。</p>	<p>北内 垣 一惠也郎和 大庭光瓶 廣三 仲卓一良</p>

* 発明の権利化と 社会貢献	研究から生まれる発明の権利化と知的財産に関する基礎知識を講義・セミナー等において習得し、医工連携の研究事例や産学連携による新産業創出およびマーケティングについての特論をオムニバス形式で学ぶ。	中 村 守 彦 阿久戸 敬 治 北 村 寿 宏 丹 生 晃 睦 中 野 隆 子
----------------------	---	---

備考 医理工農連携プログラム開設について

最近の医学医療の進歩は著しく、特に材料のみならず理工学の主要技術が医学医療に広く応用されています。このような観点より、本研究科におきましては医療技術・医療機器開発等を行う上で必要な医学に関する知識や、最新医療を支える医療技術・医療用機器に関する原理や基礎知識を修得するために、平成20年度より総合理工学研究科と連携した「医・理工連携プログラム」を開設しました。さらに平成21年度より、本学の特徴的な研究分野である「水」を含む資源循環型社会の構築に関する研究の視点を加えるため、生物資源科学研究科を含む新たな教員の参加を得て、「医理工農連携プログラム」として内容を強化しました。

医理工農連携プログラムの授業科目は上記表の*印の授業科目です。

5 授業科目，単位数及び履修方法

1) 総合医科学コース

区分	授 業 科 目	授業を行う年次	単 位 数
必修科目	生命科学概論	1	1
	人体形態学	1	2
	人体機能学	1	2
	病理病態学	1	2
	社会医学	1	2
	医の倫理学	1	2
	臨床医学概論	1	2
	医科学演習	1・2	3
	医科学特別研究	1・2	6
選択科目	老年医学	1・2	2
	リハビリテーション医学	1・2	2
	先天代謝異常学・臨床遺伝学	1・2	2
	胎児・生殖医学	1・2	2
	発生工学・実験動物学	1・2	2
	再生医学・組織工学	1・2	2
	医食同源の科学	1・2	2
	母子保健・教育	1・2	2
	医療情報学	1・2	2
	精神神経科学	1・2	2
	生活環境と健康の科学	1・2	2
	環境生理学	1・2	2
	免疫学(生体防御システム学)	1・2	2
	生体情報伝達学	1・2	2
	病態生理に基づいた薬物治療学	1・2	2
	腫瘍の発生・増殖とその制御	1・2	2
	抗悪性腫瘍薬の臨床薬物動態学	1・2	2
	地域医療学	1・2	2
	医療社会学	1・2	2
	労働と生活の心理学	1・2	2
	* 医療のための光工学の基礎	1・2	2
	* 機能性物質・食品の応用の基礎	1・2	2
	* 医生物学と数学・情報科学の接点	1・2	2
	* 臨床・社会・環境医学と高度情報学の接点	1・2	2
	* 理工医学のための生物材料学の基礎	1・2	2
	* 放射線の医療応用と同位元素の水環境への影響	1・2	2
* 発明の権利化と社会貢献	1・2	2	
<p>(備考) 全授業科目のうち，必修科目22単位及び選択科目から4科目以上で8単位以上計30単位以上を修得する。 *印は医理工農連携プログラム開設科目</p>			

2) がん専門薬剤師養成コース

区分	授 業 科 目	授業を行う 年 次	単 位 数
必修科目	生 命 科 学 概 論	1	1
	人 体 形 態 学	1	2
	人 体 機 能 学	1	2
	病 理 病 態 学	1	2
	社 会 医 学	1	2
	医 の 倫 理 学	1	2
	臨 床 医 学 概 論	1	2
	病態生理に基づいた薬物治療学	1	2
	腫瘍の発生・増殖とその制御	1	2
	抗悪性腫瘍薬の臨床薬物動態学	1	2
	医 科 学 演 習	1・2	3
医 科 学 特 別 研 究	1・2	6	
選択科目	老 年 医 学	1・2	2
	リハビリテーション医学	1・2	2
	先天代謝異常学・臨床遺伝学	1・2	2
	胎 児 ・ 生 殖 医 学	1・2	2
	発 生 工 学 ・ 実 験 動 物 学	1・2	2
	再 生 医 学 ・ 組 織 工 学	1・2	2
	医 食 同 源 の 科 学	1・2	2
	母 子 保 健 ・ 教 育	1・2	2
	医 療 情 報 学	1・2	2
	精 神 神 経 科 学	1・2	2
	生 活 環 境 と 健 康 の 科 学	1・2	2
	環 境 生 理 学	1・2	2
	免疫学（生体防御システム学）	1・2	2
	生 体 情 報 伝 達 学	1・2	2
	地 域 医 療 学	1・2	2
	医 療 社 会 学	1・2	2
	労 働 と 生 活 の 心 理 学	1・2	2
	* 医療のための光工学の基礎	1・2	2
	* 機能性物質・食品の応用の基礎	1・2	2
	* 医生物学と数学・情報科学の接点	1・2	2
* 臨床・社会・環境医学と高度情報学の接点	1・2	2	
* 理工医学のための生物材料学の基礎	1・2	2	
* 放射線の医療応用と同位元素の水環境への影響	1・2	2	
* 発 明 の 権 利 化 と 社 会 貢 献	1・2	2	
(備考) 全授業科目のうち、必修科目28単位及び選択科目から1科目以上で2単位以上計30単位以上を修得する。 *印は医理工農連携プログラム開設科目			

1年次には本学医学部附属病院において所定の研修プログラムに基づいた「がん専門薬剤師養成研修（3ヶ月間）」を履修します。

3) 地域医療支援コーディネータ養成コース

区分	授 業 科 目	授業を行う 年 次	単 位 数
必 修 科 目	生 命 科 学 概 論	1・2	1
	臨 床 医 学 概 論	1・2	2
	地 域 医 療 学	1・2	2
	医 療 社 会 学	1・2	2
	労 働 と 生 活 の 心 理 学	1・2	2
	地 域 医 療 実 習	1・2	4
	地 域 医 療 実 習	1・2	4
	地 域 医 療 学 特 別 研 究	1・2	5
選 択 科 目	人 体 形 態 学	1・2	2
	人 体 機 能 学	1・2	2
	病 理 病 態 学	1・2	2
	社 会 医 学	1・2	2
	医 の 倫 理 学	1・2	2
	老 年 医 学	1・2	2
	リハビリテーション医学	1・2	2
	先天代謝異常学・臨床遺伝学	1・2	2
	胎児・生殖医学	1・2	2
	発生工学・実験動物学	1・2	2
	再生医学・組織工学	1・2	2
	医食同源の科学	1・2	2
	母子保健・教育	1・2	2
	医療情報学	1・2	2
	精神神経科学	1・2	2
	生活環境と健康の科学	1・2	2
	環境生理学	1・2	2
	免疫学（生体防御システム学）	1・2	2
	生体情報伝達学	1・2	2
	病態生理に基づいた薬物治療学	1・2	2
	腫瘍の発生・増殖とその制御	1・2	2
	抗悪性腫瘍薬の臨床薬物動態学	1・2	2
	* 医療のための光工学の基礎	1・2	2
	* 機能性物質・食品の応用の基礎	1・2	2
	* 医生物学と数学・情報科学の接点	1・2	2
	* 臨床・社会・環境医学と高度情報学の接点	1・2	2
	* 理工医学のための生物材料学の基礎	1・2	2
* 放射線の医療応用と同位元素の水環境への影響	1・2	2	
* 発明の権利化と社会貢献	1・2	2	
<p>(備考) 全授業科目のうち、必修科目22単位及び選択科目から4科目以上で8単位以上計30単位以上を修得する。 *印は医理工農連携プログラム開設科目</p>			

6 履修モデル

医科学専攻学生の履修モデルは次のとおりです。

(1) 総合医科学コース

(A) 老年人口対策のうちリハビリテーションに特に関心を持つ学生・社会人

研究テーマ：高齢者用装具の運動機能障害の原因と程度に応じた調節に関する研究

履修年次	必修科目	単位数	選択科目	単位数
1年次	生命科学概論	1	老年医学	2
	人体形態学	2	リハビリテーション医学	2
	人体機能学	2	再生医学・組織工学	2
	病理病態学	2	生活環境と健康の科学	2
	社会医学	2		
	医の倫理学	2		
	臨床医学概論	2		
1・2年次	医科学演習	3		
	医科学特別研究	6		
	小計	22	小計	8
履修単位合計	30単位			

(B) 若年人口対策のうち先天代謝異常の早期診断に特に関心を持つ学生・社会人

研究テーマ：有機酸代謝異常スクリーニング法の改良に関する研究

履修年次	必修科目	単位数	選択科目	単位数
1年次	生命科学概論	1	先天代謝異常学・臨床遺伝学	2
	人体形態学	2	胎児・生殖医学	2
	人体機能学	2	生体情報伝達学	2
	病理病態学	2	機能性物質・食品の応用の基礎	2
	社会医学	2		
	医の倫理学	2		
	臨床医学概論	2		
1・2年次	医科学演習	3		
	医科学特別研究	6		
	小計	22	小計	8
履修単位合計	30単位			

(C) 医食同源分野のうち新規機能性食品の開発に特に関心を持つ学生・社会人

研究テーマ：桑を用いた新規抗酸化食品の開発に関する研究

履修年次	必修科目	単位数	選択科目	単位数
1年次	生命科学概論	1	発生工学・実験動物学	2
	人体形態学	2	医食同源の科学	2
	人体機能学	2	生体情報伝達学	2
	病理病態学	2	病態生理に基づいた薬物治療学	2
	社会医学	2		
	医の倫理学	2		
	臨床医学概論	2		
1・2年次	医科学演習	3		
	医科学特別研究	6		
	小計	22	小計	8
履修単位合計	30単位			

- (D) 若年人口対策のうち精神・心理的側面に特に関心を持つ学生・社会人
 研究テーマ：小児入院患者における精神・心理発達の支援法に関する研究

履修年次	必修科目	単位数	選択科目	単位数
1年次	生命科学概論	1	胎児・生殖医学 母子保健・教育 精神神経科学 環境生理学	2
	人体形態学	2		2
	人体機能学	2		2
	病理病態学	2		2
	社会医学	2		
	医学倫理学	2		
1・2年次	医学演習	3		
	医学特別研究	6		
	小計	22	小計	8
履修単位合計	30単位			

(2) がん専門薬剤師養成コース

がん専門薬剤師養成コースを履修し、修了後、がん薬物療法認定薬剤師及びがん専門薬剤師認定を受けようとする学生・社会人

研究テーマ：がん化学療法における薬学的管理の最適化に関する研究

履修年次	必修科目	単位数	選択科目	単位数
1年次	生命科学概論	1	免疫学（生体防御システム学）	2
	人体形態学	2		
	人体機能学	2		
	病理病態学	2		
	社会医学	2		
	医学倫理学	2		
	臨床医学概論	2		
	病態生理に基づいた薬物治療学	2		
腫瘍の発生・増殖とその制御	2			
抗悪性腫瘍薬の臨床薬物動態学	2			
1・2年次	医学演習	3		
	医学特別研究	6		
	小計	28	小計	2
履修単位合計	30単位			

(3) 地域医療支援コーディネータ養成コース

県、又は市町村等の健康福祉部門に勤務し、地域医療関係の仕事に従事する社会人

研究テーマ：へき地への医師定着を支援する行政職の役割に関する研究

履修年次	必修科目	単位数	選択科目	単位数
1年次	生命科学概論	1	医学倫理学 老年医学 医療情報学 生活環境と健康の科学	2 2 2 2
	臨床医学概論	2		
	地域医療学	2		
	医療社会学	2		
	労働と生活の心理学	2		
	地域医療実習	4		
1・2年次	地域医療実習	4		
	地域医療学特別研究	5		
	小計	22	小計	8
履修単位合計	30単位			

7 修了の要件

1) 総合医科学コース

修士課程に2年間在籍し、必修科目22単位、選択科目8単位以上の合計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び試験に合格することとします。

2) がん専門薬剤師養成コース

修士課程に2年間在籍し、必修科目28単位、選択科目2単位以上の合計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び試験に合格することとします。

3) 地域医療支援コーディネータ養成コース

修士課程に2年間在籍し、必修科目22単位、選択科目8単位以上の合計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格することとします。

医理工農連携プログラム(10ページを参照ください。)の科目は、上記1)、2)、3)のいずれのコースに属する学生も上記要件の範囲で履修できます。

8 学位授与

学位は、修士(医科学)です。

9 長期履修制度

長期履修制度とは、職業を有している人などで研究時間が十分に取れず標準の修業年限では修了することが困難な人が、修業年限を超えて長期にわたって計画的に教育課程の履修を行う制度です。

(1) 長期履修を申請することができる人

職業を有している人

育児、親族の介護等の特別の事情のある人

(2) 長期履修の期間

長期履修が認められる期間は年単位で、標準の修業年限の2倍の年数を超えることができません。

2年 3年又は4年

(3) 授業料

授業料は、通常の授業料の年額に標準修業年限を乗じた額を長期履修期間の年数で除した額を毎年納入します。

$(\text{通常の年額授業料} \times 2 \text{年}) \div (3 \text{年又は} 4 \text{年}) = \text{長期履修の年額授業料}$

例1) 3年の長期履修の場合 $535,800 \text{円} \times 2 \text{年} \div 3 \text{年} = 357,200 \text{円}$ (年額)

例2) 4年の長期履修の場合 $535,800 \text{円} \times 2 \text{年} \div 4 \text{年} = 267,900 \text{円}$ (年額)

(4) 申請手続

申請時期

入学手続期間内

提出書類

ア. 長期履修申請書

イ. 在職証明書(職業を有している人)

ウ. その他大学院が必要として求める書類

(5) その他

長期履修を希望される方は、入学手続き時に申し出てください。

相談窓口

島根大学医学部学務課入試・大学院室

〒693-8501 出雲市塩冶町89-1

電話 0853-20-2083

電子メール nyusi@med.shimane-u.ac.jp

10 入学金・授業料の免除及び徴収猶予制度

入学金については、経済的理由によって納付が困難であり、かつ学業優秀であると認められる者、あるいは、特別の事情（入学前1年以内に、入学する者の学資負担者が死亡し、又は入学する者もしくは学資負担者が風水害等の被害を受けた場合等）によって納入が困難であると認められる者に対して、その全額又は半額が免除される制度及び徴収を猶予される制度があります。

授業料についても、同様な制度があります。

11 奨学金制度

【日本学生支援機構奨学金】

学業成績、人物とも優れた学生で、経済的理由によって修学困難な方には、選考の上、奨学金が貸与されます。

平成22年度貸与月額

第一種奨学金（無利子） 50,000円又は88,000円

第二種奨学金（有利子）（年3%を上限とする利息付、在学中は無利息）

50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円

の5種類から貸与額を選択

12 学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険

教育研究活動中及び通学中等に傷害を被った場合あるいは、他人に対する賠償責任が発生した場合の補償制度で、医学部では学生全員が加入する保険です。

13 個人情報の取扱い

入学志願者・受験者の個人情報については、次のとおり取り扱います。

出願書類等に記載された個人情報（氏名、生年月日、性別その他の個人情報等）は、入学者選抜及び合格通知並びに入学手続きを行うために利用します。

また、同個人情報は、合格者の入学後の教務関係（学籍、修学指導等）、学生支援関係（健康管理、奨学金申請等）、授業料等に関する業務及び調査・研究（入試の改善や志望動向の調査・分析等）を行う目的をもって本学が管理します。他の目的での利用及び本学の関係教職員以外への提供は行いません。

島根大学における個人情報の取扱いについては下記のとおりです。

個人情報保護ポリシー

島根大学は、個人情報の重要性を認識し、個人情報の不正使用や漏えい等を防ぎ、適正に取り扱うため、法令その他の規程に基づき、安全管理体制を整備するとともに、職員の個人情報保護への意識向上に努めます。

島根大学は、次のとおり個人情報保護への取り組みを継続的に実施していきます。

(1) 個人情報の収集について

個人情報を収集する場合は、利用目的を明示したうえで行います。

(2) 個人情報の利用及び提供について

個人情報は、利用目的の達成に必要な範囲内で利用し、第三者に提供することはありません。

なお、法律に基づく場合や本人から事前に同意を得ている場合は、第三者に提供することがあります。

(3) 個人情報保護のための安全対策について

個人情報への不正アクセス、紛失、破壊、改ざん並びに漏えい等を未然に防ぐための安全対策に努めます。

(4) 個人情報の管理体制について

個人情報を適切に管理するため、総括保護責任者、部局保護責任者、保護管理者、保護担当者による管理体制を整備しています。

(5) 個人情報の開示等及び相談窓口について

本学が保有している個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」により開示等の請求を行うことができます。

なお、開示等の請求及び苦情相談等については、下記の窓口をお願いいたします。

島根大学総務部総務課

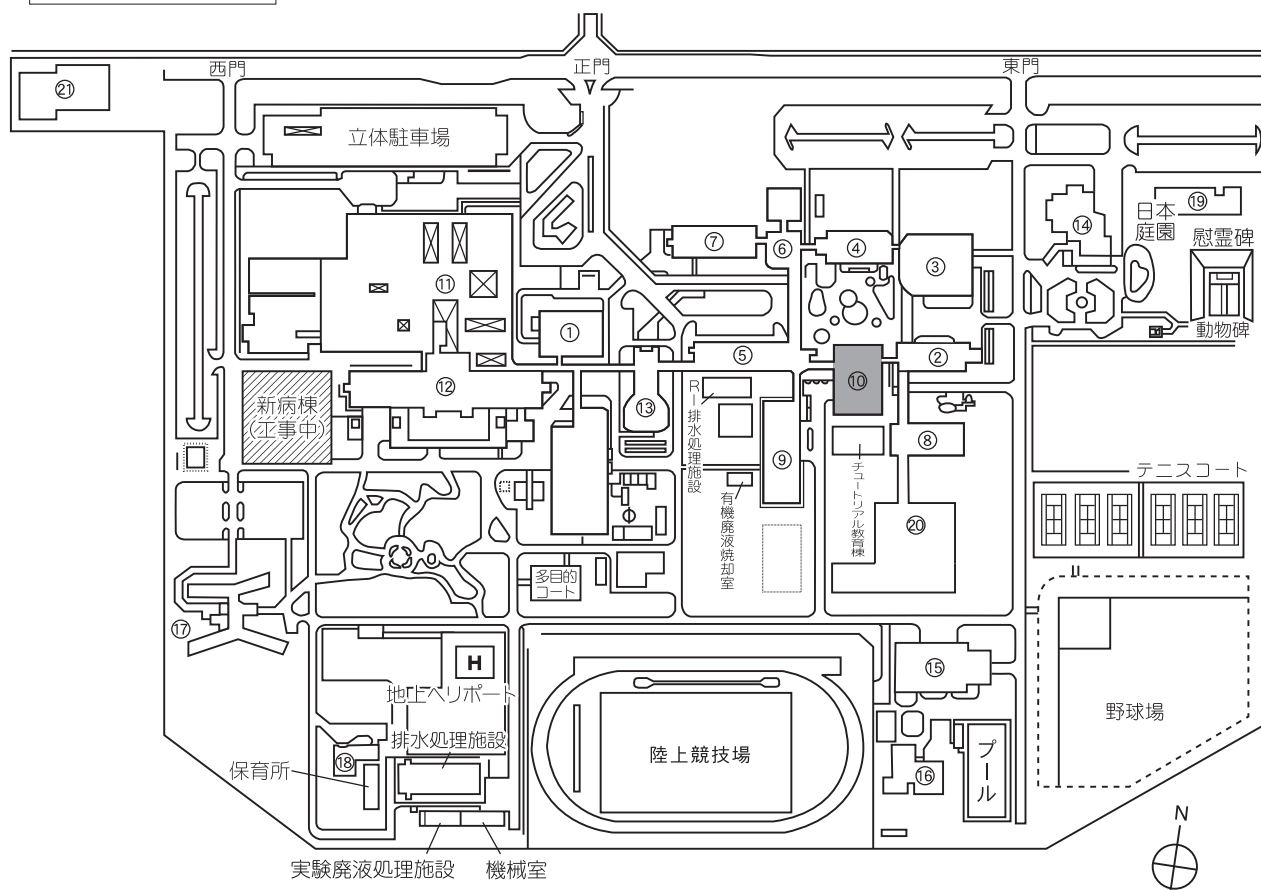
電 話 0852-32-6015

電子メール jsy-bunsyo@jn.shimane-u.ac.jp

個人情報とは

生存する個人に関する情報であって、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述により特定の個人を識別できるもの（他の情報と照合することができ、それにより特定の個人を識別することができることとなるものを含む。）をいいます。

建物配置図

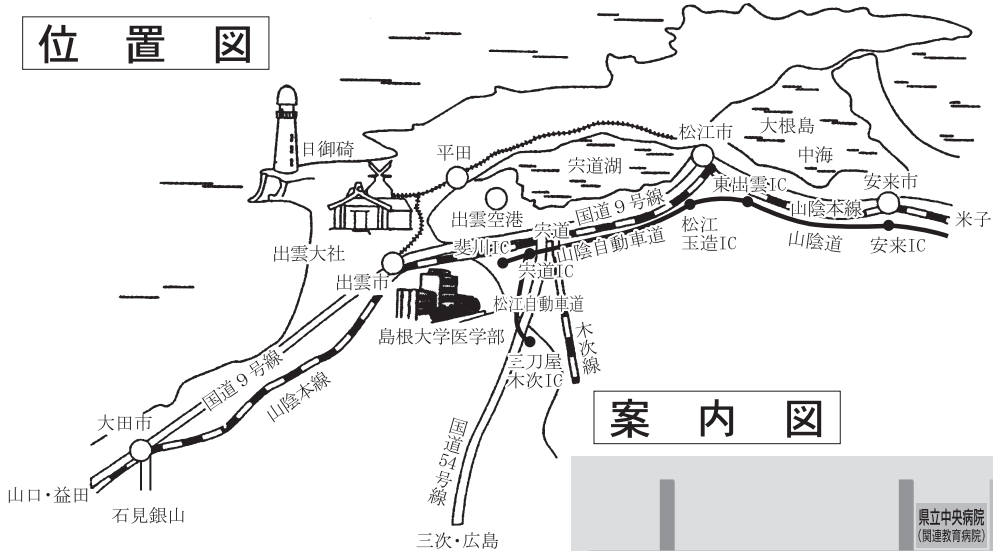


配置図番号	主要建物名
1	医学部本部棟
2	講義棟
3	実習棟
4	基礎研究棟
5	臨床研究棟
6	共同研究棟
7	第二研究棟
8	第三研究棟
9	R I ・動物実験施設
10	医学図書館棟 (1 F 学務課)
11	外来・中央診療棟

配置図番号	主要建物名
12	病棟
13	臨床講義棟
14	大学会館出雲 (2 F 保健管理センター出雲)
15	体育館
16	武道場
17	看護師宿舍
18	医学部会館
19	国際交流会館出雲
20	看護学科棟
21	産学連携センター (地域医学共同研究部門)

■ は、試験室等の建物を示しています。

位置図



案内図



交通機関

飛行機利用

- 東京 (約1時間20分)
- 大阪 (約1時間05分)
- 隠岐 (約30分)
- 福岡 (約1時間15分)

出雲空港

連絡バス (約25分)

JR利用

- 岡山駅
- 特急 (約2時間55分)
- 出雲市駅**
- 特急 (約3時間15分)
- 新山口駅

高速バス利用

- 東京 (約12時間15分)
- 東京駅八重洲南口
- 名古屋 (約10時間)
- 名古屋駅
- 大阪 (約5時間30分)
- 阪急梅田
- 京都 (約5時間45分)
- 京都駅
- 神戸 (約5時間)
- 三宮バスターミナル
- 岡山 (約3時間40分)
- 岡山駅前
- 広島 (約3時間30分)
- 広島新幹線口
- 福岡 (約8時間)
- 福岡交通センター

出雲市駅

出雲市駅

JR出雲市駅から島根大学出雲キャンパスへ

- 【バス】北口 番のりば：上塩冶車庫方面 (市民会館・島根医大 経由) 行き、又は 番のりば：須佐 (島根医大・立久恵峡 経由) 行き、島根医大・稗原経由 根波線のバスに乗り、『島根医大病院』で下車
- 【徒歩】出雲市駅南口から徒歩約25分